

欧米の機関投資家がドバイ株を買い始めた

ザ・スリーピー代表取締役
石田和靖
KAWAYASHI Shizuka

昨

秋からドバイの株価が上昇している。この背景には、九月末にアメ

リカの投資銀行ゴールドマン・サックスが機関投資家向けにGCC(湾岸協力会議)アラブ首長国連邦、バーレーン、クウェート、オマーン、カタール、サウジアラビア)諸国を推奨するレポートを出したことがある。レポートでは、アラブ首長国連邦(UAE)をなかでもドバイについて、経済状態も良く、国際企業も多いことを紹介。ドバイの巨大プロジェクトを手がけるGCC最大の不動産開発会社エマールプロパティや不動産金融会社タムウイールなど一〇銘柄を買い推奨した。

これまでドバイに欧米の資金が入らなかつたのは、金融インフラが整っていないから。ドバイでは、一九五〇年代から脱石油依存をめざし、非石油事業を中心とする経済政策を実施。九〇年代には、大規模な都市開発が始まった。二〇〇〇年三月にはドバイ証券取引所、同年九月には隣のアブダビに証券取引所が誕生。〇五年には外国企業も上場できるドバイ国際証券取引所も設立されている。

ドバイの発展に拍車をかけたのは、〇一年の米国同時多発テロだ。テロを機に、米国からオイルマネーが逆流。それがドバイの株式市場や不動産・インフラ投資に向かい、「世界の建設クレーンの三割が

ドバイにある」と言われるまでになった。〇七年二月、シエイク・モハメッド首長は、一五年までの経済・社会政策プラン「ドバイ・ストラテジック・プラン2015」を発表。金融、貿易、不動産、IT、メディア、医療サービスの育成に力を入れ、一五年まで年率一〇%の成長

もIPOが増える見込みで、国営航空のエミレーツや国営郵便会社エミレーツ・ポストの上場が予定されている。優良企業の上場でドバイ市場が活況を呈し、株価も上昇するものと思われる。また、通貨デイルハムのドルベッグ制廃止も検討されている。実現するとデイルハムは三

政情が不安定な中東に投資なんて考えられない

脱石油依存で優良企業台頭 ネットと郵便を使えば 現地に証券口座開設も可能

率を維持するとしている。また、各業種ごとに経済特区を設置し、進出企業には優遇税制などの措置が与えられることから、世界中から資本が流入している。ドバイの国営港湾管理会社ドバイ・ポート・ワールドは〇七年一月、IPO(新規株式公開)を行い、中東では最大規模となる四三・二億米ドルを調達。〇八年以降

五年で二〇〜三〇%切り上がると見込まれており、ここでも収益が期待できる。では、どうすればドバイ株に投資できるのか。まず、現地のマックシヤラフ証券に口座を開く必要がある。同証券はネットでも必要書類をダウンロードすれば、郵送で口座開設が可能だ。UAE最大の運用会社シユア・キャピタルに口座を開

くと、ドバイ株に投資する投資信託を購入することもできる。こちらでもネットでも口座開設申込書の請求ができる。日本の証券会社でも、投資信託を使って、「シユロ・ダーMEENA(中東・北アフリカ)ファンド」や、「フイデリテイEMEA(アフリカ、中東、ロシア、東欧)ファンド」「日興・スパークス・アジア中東株式ファンド」を通じて、中東に投資できる。

ドバイ株のリスクとしては、インフラが激しいため、景気が減速することがある。また、戦争のリスクもあるが、イランと米国の間で戦争が起こることは現実問題として考えにくい。強力なリーダーであるシエイク・モハメッド首長の後継者が不透明なこともリスクといえるだろう。

ドバイ株指数 (DFMインデックス) の動き (2004年12月1日~07年12月1日)



いしだ・かずやす●1971年、東京生まれ。会計事務所に10年間勤務。中東~東南アジアの法人を担当した後、ザ・スリーピー設立。著書に『タイ株投資完全マニュアル 入門編』など。

大山弘子=構成 図版作成=ライヴ・アート